

## 成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><b>【研究面】</b></p> <p>①前年度に続き、「差別化のタイプ」と「イノベーションのジレンマ」関わる研究を行った。前年度の研究では、「漸進的イノベーションは垂直的差別化、破壊的イノベーションは水平的差別化」という仮説を立てた。そこで今年度は、実存企業による多くの差別化戦略を調査し仮説の検証を試みた。その結果、漸進的イノベーションであり垂直的差別化といえるもの、または、破壊的イノベーションであり水平的差別化といえるものが存在したのは事実であるが、どちらに該当するのか判別が難しい差別化が数多くあることも判明した。今年度は差別化の事例研究まででとどまっているが、今後、判別の難しい差別化を「イノベーションのジレンマ」との関連においてどう理論として体系化できるのか検討していきたい。</p> <p>②経営戦略に関わる「環境分析」について研究を行った。その意図は、経営戦略策定の前提について再考し知識を深化させたいと考えたからである。「環境分析」は経営戦略論における基本中の基本である。しかし、実際に戦略を策定する際、外部環境や内部環境が具体的にどう影響するのかについては明確にされていない。現実には、戦略を策定する経営者の「直観」に依存するのではないかとの見解も存在する。これらの点については、来年度も継続して検討していきたい。</p> <p><b>【教育面】</b></p> <p>◆学部ゼミ</p> <p>2年次生：経営戦略やイノベーションに関する研究に入る前提として、経営学全般について学んだ。経営学説史や組織論、マーケティング、リーダーシップ論など幅広い知識の習得を図った。</p> <p>3年次生：経営戦略に関する専門書を輪読すると同時に、実存企業の経営行動について理解するためにビジネス誌（日経ビジネス）を用いて事例研究を行った。理論と実践、両面からの学習、研究ができたと考えている。</p> <p>4年次生：卒論執筆に関わる指導を行った。その際、自分なりの仮説を立てることを重視するよう何度も指示した。結果として、各自オリジナリティの高い論文を仕上げることができたと考えている。</p> <p>◆講義</p> <p>「ベンチャービジネス論」の講義を担当したが、毎回事例を多用し理論のスムーズな理解を促した。また、ベンチャービジネスが必ずしも自然科学的なハイテクを必要とするものではないことを繰り返し伝え、社会科学を学ぶ学生でも起業が可能であることを理解してもらうよう努めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p><b>【学内での活動】</b></p> <p>経済学部長を務め、様々な業務を遂行した。</p> <p><b>【学外での活動】</b></p> <p>①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会（特級）」において、「経営戦略論」の講義を行った。</p> <p>②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略（基礎理論）」および「イノベーション（基礎理論）」というテーマで講義した。</p> <p>③JA 群馬中央会からの依頼により、「戦略型中核人材育成研修会」において、「経営戦略の基礎理論」というテーマで講義した。</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、上述したとおり、多様な差別化と「イノベーションのジレンマ」との関連性を明確にし、包括的な体系化を試みたい。また、「環境分析」という経営戦略の基礎についても考察を深めたい。

教育面では、毎年のことであるが、最新の事例を多用することにより、経営戦略やイノベーションに関する学生の知識の深化を図りたい。

その他の事項としては、来年度からキャリア支援センター長を務めることになったので、その役目をしっかり果たしていきたいと考えている。